

明和八年銘石造狛犬



〔指定年月日〕昭和六三年三月三十一日  
〔種別〕有形文化財（彫刻）  
〔名称〕明和八年銘石造狛犬  
〔点数〕一対  
〔所有者等〕天神社  
〔所在地等〕高井戸西一―七―二

## 明和八年銘石造狛犬

この狛犬は、社殿に向って右に阿形、左に吽形の一对を対侍形に配置した、高さ二五cm、幅二五・五cmの安山岩製のものである。

阿吽両形とも前足を立て、後足を折り伏せた大座姿勢をとり、頭部は小ぶりで、体軀は立ちが低くやや長めである。また阿形の頂部には、角をはめ込んだ跡と見られるくぼみがある。

天神社は、江戸時代には第六天社と呼ばれた上高井戸村の鎮守で、医王寺が別当を務めていた。そのため、この台石正面には「奉納大六天宮御宝前」、横面には医王寺の住職名と願主名、そして「明和八年九月吉日 石工四ッ谷坂口 五兵衛」と銘が刻まれ、造立年（一七七二）と願主、作者が確認できる。

この狛犬は、首から両前足の付け根にかけての部分がかぶラ型に広がり、やや誇張がみられるものの、全体的には素朴な中にも入念な彫造を施している。

屋外に安置された狛犬としては区内で最も古く、江戸中期の作風をよく表わした狛犬として貴重なものである。

### 【文化財所在地】

